

# ADL

## Review

analog

2017 SUMMER - JAPAN



レコード再生ブランド®

# ADL (Alpha Design Labs)

アルファ・デザイン・ラボ  
(JAPAN)

ADL  
ALPHA DESIGN LABS

## アナログレコードの深い楽しみを 先進のネットオーディオと高度に融合する

Text by 井上千岳 *Chitake Inoue*  
Main photo by 田代法生



### GT40a

フォノイコライザー内蔵USB DAC  
¥55,200 (税別、写真右)

### STRATOS

フォノイコライザー内蔵DAC/ADCデジタルプリアンプ  
¥139,800 (税別、写真左)

### Specifications

【GT40a】●入力:デジタル→USB(B)×1、アナログ→RCA(ライン/フォノMM/MC)×1 ●アナログ出力:RCA×1、6.3mmステレオ標準×1 ●サイズ:150W×111D×57Hmm ●質量:約650g

【STRATOS】●入力:デジタル→RCA同軸×1、光TOS×1、USB(B)×1、アナログ→RCAライン×1、フォノ(MM/MC)×1 ●出力:デジタル→光TOS×1、USB(B)×1、アナログ→RCA×1、XLR×1、6.3mmステレオ標準×1、4極XLR×1 ●サイズ:215W×64H×180Dmm ●質量:約1.33kg ●取り扱い:フルテック(株)

現在ではヘッドフォン本体やイヤフォン、USB/LANケーブルなど幅広いラインアップを持つ。なかでもフォノ/ADC機能まで備えた複合的なUSB DACが、ひときわ強い存在感を放っている。

とりわけ、ヘッドフォン人気と連動したポータブルアンプには高い需要が集まり、ADLブランドの確立に大きく貢献したと言っている。

しかしちょうどその時期がPC/ネット系オーディオの隆盛期と重なっていたため、USB DACやポータブルアンプなど、デスクトップ・オーディオを中心としたラインアップが急速に拡充されてゆくことになった。

●ブランドの成り立ちと歴史  
ネットオーディオ隆盛と併に  
独自のラインアップを拡充

ADL(Alpha Design Labs)は、フルテック

が別ブランドとして創設した新

しいブランドである。本来はコ

ネクターやケーブルで培ってき

たビュア・トランスミッション・

テクノロジーを、エントリレ

ベルのジャンルに展開すること

を目的として始められた。



フルテック株式会社  
代表取締役社長  
葉山吉祥氏

●メーカーから

ADLはケーブル/アクセサリメーカーのフルテックを母体に、2010年に立ち上げました。デスクトップやパーソナルオーディオと、ハイエンドオーディオの融合を目指し、フォノEQ内蔵のDAC/ADCの「GT40」を開発。世界に先駆けてホームユースでの“アナログ音源のハイレゾファイル化”を果たし、愛聴盤をデジタルライブラリーとして多彩なシーンで聴取可能にしました。フルテック製パーツを用いた精緻な作りは、後継機「GT40a」「STRATOS」にも継承し、スペックアップや更なる音質向上も実現しています



各種デジタル入出力を備えるSTRATOS。最大対応fs周波数(USB DAC)は384kHz/32bit(PCM)、11.2MHz/1bit(DSD)。ADCは192kHz/24bit。GT40aとともにRCAライン入力とフォノMM/MCに対応。アナログライン出力とヘッドフォン出力も装備し、単独で通常のフォノEQや、ヘッドフォンアンプとしても活用可能

**Line up**

メイン導体に純銀メッキα-OFCを採用のUSB 2.0ケーブルFormula 2 USB。A-BとA-mini Bを0.6m(¥4,400)~5m(¥10,450)まで各種揃える

アルファ・デザイン・ラボの歴史

- 2015
  - 11月にGT40aのADC機能を継承し、グレイドアップしたフォノEQ内蔵のDAC/ADC/デジタルリアンプ、「STRATOS」を発売
- 2014
  - ブランドを設立。フォノEQ内蔵USB DACの「GT40」を発売
  - フォノEQ搭載USB DAC、GT40の後継機「GT40a」を発売。
  - アナログ音源を192kHz/24bitでデジタルアーカイブ化可能。オーディオ銘機賞2015受賞。ビジュアルグランプリ2015SUMMERで分科会特別賞のアナログマイノリティ賞(レコード)受賞
- 2010
  - ブランドを設立。フォノEQ内蔵USB DACの「GT40」を発売

●目指す音と技術ポイント  
純粋伝送を理念に掲げ  
最先端を価格を抑えて追求

もともとはフルテックのエントリーラインとして開発されたADLブランドだが、現在ではデスクトップやポータブルのジャンルでリーディングカンパニーのひとつとなっている。最先端の技術を追求することによって、一定のコストやサイズなかで最高の音質を実現することが常にその目標とされてきた。

そのバックボーンとなるのは、やはりフルテックと同様にPure Transmissi on、純粋伝送ということである。これによって限られたコストのなかでも、これまでには得られなかった再現力を獲得することが可能だとする。低ノイズで静寂な背景、生き生きとした色彩感、広いレンジなどがその目的とされている。

具体的にはまず、アルファ・プロセッシングが挙げられる。ここではクライオジェニックと消磁の2段階による処理で、金属素材のストレスを解消し、安定した導通性の高い性質が得られるという。ADLの金属パーツには、全てこの処理が施されている。アルファ・プロセッシングによる金属素材は、α・OFC、α・OFCなどの名称で呼ばれ、ADL(フルテック)固有の素材としている。

このほかダンピング材や絶縁材にも独自の素材が投入され、制振や防振効果を高めている。●代表モデルのサウンド  
高S/Nでニュアンスも鮮明  
単体EQとしても優れた再現

ADコンバーター内蔵のフォノイコライザーが、脚光を浴びている。GT40aはベータシックモデルで、USB接続を通じてPCなどに録音することができる。レコードのアーカイブが可能で、S/Nが良く、解像度にも優れた再現性だ。レスポンスが整ってバランスが良く、破綻のない鳴り方をする。またピアノなどのタッチがクリアで、ニュアンスが細かく輪郭が鮮明。オーケストラも濁りがなく、当たりが柔らかない。

STRATOSは上級機で、やはりUSB対応。音調がさらに充実して、音数が増す。S/Nもいっそう向上している。パロックの弦楽器の質感が艶やかに描かれ、アンサンブルが緻密だ。通奏低音がどっしりと沈んでいるため、レンジの広さがより生きてくる。またピアノのタッチも輪郭がくっきりして、骨格が強い。低音部の和音が力強く、弱音のニュアンスもデリケートに捉えられている。表現の幅が広いのである。

オーケストラは峻烈で、強弱の起伏が豊かだ。切り口はシャープだが、ダイナミズムに余裕があつてがっしりとしている。鮮明で手応えが強靱である。